

## 第71期第2回男女共同参画推進委員会議事録

日 時：2015年9月14日（火）13:00-16:00

場 所：日本物理学会 大会議室（東京都文京区湯島 2-31-22 湯島アーバンビル 4階）

出席：板倉(委員長)、永宮、野尻、鹿野、小田原、中山、フラナガン、(以上委員)

岡村、白勢(事務局)、オブザーバー：藤井(物理学会会長)

スカイプ参加 伊藤(副委員長)、山本(委員)、森(オブザーバー前委員長)

欠席：本橋、間宮、高安、(以上委員)、 (敬称略)

### 【配布資料】

資料1\_第一回委員会議事録 (\*すでに男女共同参画推進委員会 HP にアップロード済)

資料2、3、4 理事会資料

資料5 AAPPS,および Gender Summit の写真,

5a-c Gender Summit 予稿3件、資料5d 会長プレゼンテーション資料

資料6 女子中高生夏の学校 2015 の報告①, ②, ③

資料7 物理学会年会シンポジウム案たたき台

資料8 学協会連絡会シンポジウム(10/17)会告、および物理学会予稿

回覧資料\_AAPPS/Gender Summit 6 報告書(案)

回覧資料\_女子中高生夏の学校、(夏学参加者用の)配布資料

机上配布資料\_日物応物連絡会および国際組織との関連図

### 【議題】

#### 【1】第1回委員会議事録の確認

資料1\_議事録 (男女共同参画推進委員会 HP にアップロード済)

#### 【2】理事会報告

- ・6, 7, 8, 9月の理事会の報告を、委員長から行った。

#### 【3】AAPPS-WIP および Gender Summit 6 の報告。

- ・藤井会長、板倉、鹿野、森の8/25-29の韓国ソウルへの出張報告を行った。

AAPPS-Woman in Physics Workshop (2015 08 26) 6 か国より 27 名の参加があり、藤井会長の物理学会の活動紹介、鹿野委員の日本の物理系研究者のキャリアパス(年会シンポジウム内容)の紹介をおこなった。

Gender Summit 6 (2015 08 26-28) 40 か国から 589 人の参加があり、日本人の参加は 43 人だった。物理学会からは、森、鹿野、板倉が発表を行った。また、JST の主催するダイバーシティに関する意見交換会では、日本物理学会、応用

物理学会を含む研究機関や大学のダイバーシティ活動の紹介が行われ、渡辺JST執行役から、2017年の春に日本で行われる予定のGender Summitに向けた意見募集があった。

- ・藤井会長から、IUPAP、学術会議、と日物応物連絡会および、物理学会男女共同参画推進委員会との関係図が示された。これらの説明資料を共有することとした（HPに掲載しておくか、委員会の中のみの所有にするか、あるいは物理学会全体HPに掲載するかは今後検討する）。

また、Gender Summit 他国際連携活動は、現在日物応物連絡会が窓口になっており、今後の分担金なども、応用物理学会と連携を取りながら対応していくことを、オブザーバーの藤井会長とともに確認した。

- ・報告書は物理学会応物学会の承認が取れたのち、HPに掲載することとした。

#### 【4】女子中高生夏の学校 2015 の報告が、小田原委員、中山委員からあった。

- ・2015年8月6日から8月8日まで、(独)国立女性教育会館(NWEC 埼玉県比企郡嵐山)で、女子中高生夏の学校が開催された。物理学会からは、実験実習「地磁気を測ってみよう(ホール素子、プリアンプを用いた実習)」、演示実験「手作りエネルギーに挑戦(ペルチェ素子)」、ポスター展示「不思議な原子核の世界」をおこなった。また、国際交流プログラムとして、外国人留学生と英会話での交流会「英語相談所」、「国際交流」、「もっと話そう英語」を実施した。保護者教員対象の「海外理工系事情」では、外国人学生や留学経験者の協力を得て、海外の理工系大学での大学教育や生活、文化、自身のキャリアパス形成等を紹介した。いずれも参加者が多く、前年以上の盛況ぶりであった。内容は、NWECの確認を取ったのち、当委員会HPに掲載、あるいはNWECにリンクすることとした。

- ・この関連で、物理学会では女子学生会員よりも一般女性会員の割合が小さいこと、学生会員に物理学を続けてもらうには、どのような方法が考えられるかの議論があった。物理オリンピックに日本の女子生徒が少ないことも問題視された。今後も継続しなければならない検討課題である。

#### 【5】物理学会年会シンポジウム内容の検討を鹿野、野尻担当委員中心で行った。

- ・「国際化・物理教育」をテーマとする案、「男女共同参画とは？」を考え直す案が提案されたが、いずれも意見が多く出て、決定には至らなかった。
- ・若手の研究者(学生やポスドク)を他のセッションからシンポジウムに引き寄せるような魅力的なテーマを考えること、そのためにはある程度若い講演者を選ぶ必要があるのではないか / 大学や他の学会ではできないことで物理学会ができることがあるか / 企業や旧帝大の人事担当者が、採用の着眼点や、物理学の魅力アピールしてはどうか / 物理学会キャリア支援センター、物理教育委員

会ともっと密に連携を取って、シンポジウムテーマを決めてはどうか、等の意見があった。

- ・本橋委員は物理教育委員会の委員でもあるので、協力を依頼し、web 審議として、10月のシンポジウム申し込みまでに、内容及び詳細を検討することになった。

#### 【6】男女共同参画学協会連絡会関連の報告。

- ・フラナガン委員から、学協会連絡会委員会の報告があった。
- ・10月17日に、千葉大学で学協会連絡会シンポジウムがあり、その参加者を募り、委員会の中から5名参加することが決まった。

#### 【7】その他

##### ◆設立70周年事業について

- ・当委員会が企画する「物理と社会」でのシンポジウムとしては、70周年事業に関連付けたものは行わない。ただし、男女共同参画推進委員会は、最近（50周年以降）にできた委員会なので、その発足に関わる文章などを、会誌に掲載してはどうか、という意見が出た。今後検討する。

##### ◆アテナプログラムについて。

- ・2013年に物理学会から、国内研究機関に協力依頼したアテナプログラム（外国籍の若手・中堅女性研究者が個人で、日本の最先端研究施設や研究環境が整っている日本の研究機関で、機関の制度に基づく一定の期間、施設利用あるいは共同研究を行う機会を提供するプログラム）に対応し、高エネルギー物理学研究所(KEK)が、短期来訪者を受け入れることになった。日本物理学会をハブとして、他の研究機関の見学、訪問が可能かどうかの検討を行った。委員対委員と、その所属組織としては現状対応可能だが、アテナプログラムの見直しなども考慮に入れて、今後検討していくこととした。
- ・アテナプログラムに関して、KEKの関連書類をリンクする、このプログラムの成果として男女共同参画推進委員会のHPに掲載する、等は今後検討する。

##### ◆事務局からの連絡。

- ・委員会の来年度予算の確認があった。来年度のAPPC13でのAAPPs-WIPはオーストラリアで行われるため、旅費が大きくなる可能性が高いが、2017のGender Summitに関連する議論をする場となるため、3人分の旅費を計上（申請）することとした。一方、前回委員会から審議していた、女子中高生夏の学校への寄付、2017年Gender Summitに関わる資金は、具体的なことが確定していないので、計上（申請）しないこととした。ただし、準備委員会等を作る必要があるため、日物応物連絡会に関わる旅費（詳細は今後決める）を計上することとした。

◆第3回委員会は、2016年3月上旬に行う予定。

以上